



令和元年度 さいたま市立土呂中学校 学校だより

見沼のほとり

第 10 号
令和2年2月1日

学校教育目標

主体的に生きる人間の育成 <意欲・健康・豊かな心>

「自立」に向けて

校長 富田 敦

中学校は子どもで入学して、大人で卒業していく所です。

今年の土呂中学校1年生は、明るくて元気で給食をいっぱい食べ、校歌を思いっきり歌う学年です。いい意味で子どもらしさが残る学年だと感じています。この元気印が「成長したなあ」と実感させてくれました。

1年生は、「仲間と考える私たちの未来～ふみだそう自立への第一歩～」をスローガンとして掲げ、東京方面を目的地とした校外学習を1月に行いました。第1学年の1年間の行事の中では最も大きなものです。この校外学習を終えた 竹久 実緒子 実行委員長と大隈 逞吾 副実行委員長、山本 夏綺 副実行委員長はこのように話してくれました。

「小学校の校外学習では行き先を自分たちで決めることはありませんでした。中学校の校外学習は一からコースを作ります。これは、楽しみである反面、不安でもありました。自分たちで行動計画を作り、まとめるのはとても大変でした。行き先について、班の中で意見がまとまらなかったり、班長の言うことを聞いてくれなかったりしたこともありました。」

「校外学習当日、緊張感をもって行動したため、事故はありませんでした。公共のルールも守れました。男女は分かれることなく仲よく協力できました。班の中で固い絆が生まれ、うれしかったです。計画通りにできた達成感でいっぱいです。帰りの車内で『ここ楽しかったね』という言葉があつてうれしかったです。この経験を生かし、これからの学校生活では『時間を守る=※オルゴール着席』をさらに実行します。」

大澤 貴史 学年主任は、生徒の充実した活動に目を細め、こう語ります。「校外での『学習』という面では、好奇心いっぱい目を輝かせ、話を聞いたり見学ができている姿に学生らしさを見取ることができました。行動面では、生徒は臨機応変な対応ができてよかったです。それは、事前によく準備をしたり、実行委員がその場で適切な判断をしたためにできたということです。また、先生方の目が届かないところでも学校で決めたルールや交通ルールなどの社会のルールを守ることができました。さらに、班員同士で協力性や協調性が高まりました。入学以来の成長を感じることができました。」

大きな行事を成功に導いた中心である実行委員長、副実行委員長は校外学習の経験を踏まえ、「自立」という言葉について、はっきりとした口調でこのように話しました。「自立とはルールを守って自分の責任を果たすこと」「自立とは、私たち一人ひとりが、たとえ1人であっても自分で考えて行動できるようにすること」「自立とは大人になるために必要なことができること」、経験の上に立った言葉は、心のことばです。

※オルゴール着席…土呂中学校では始業のチャイムが鳴る2分前に校歌のオルゴールが鳴ります。このオルゴールが鳴るときには始業の準備をして着席をしましょう、という生徒の取組のことです。

さて「食」について、学校と家庭が連携して取り組む必要があると感じていることがあります。1月に給食委員会が全生徒を対象としてアンケートを行いました。そのひとつ「朝食を必ず食べますか？」という問いに対する結果が以下の通りです。「必ず食べる」と回答した生徒が少なかったことについて、PTA運営委員に尋ねたところ「登校時刻ぎりぎりまで寝かせていることがあると聞きます」「仕事のため子どもよりも先に家

	必ず食べる	平日でも食べない時がある	休日は食べない	ほとんど食べない
1年生	81%	12%	5%	2%
2年生	87%	7%	4%	2%
3年生	76%	10%	6%	8%

を出る保護者もあります」などの話を伺いました。「朝しっかりと食べないと学習の効果は半減します。朝ご飯は脳のスイッチです。」(永瀬 友紀 養護教諭) 今月末には公立高校入試があり

ます。朝食をとって、エネルギーを満タンにして学校での学習に取り組ませましょう。